



保健学研究科

渋谷 文子さん

Q.取り組んでいる研究の紹介

私は、保健学研究科国際地域保健学に所属しており、博士後期課程学生として国際学校保健に関わる研究を行っています。現在取り組んでいる研究テーマは、「太平洋島嶼国ミクロネシア地域における学校保健」に関する研究です。太平洋島嶼国ミクロネシア地域は、「ミクロ」という名前の通り小さな島々で構成されています。博士研究では、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島共和国、パラオ共和国の3か国を対象とした多国間比較研究を実施しています。太平洋島嶼国のミクロネシア地域は、現地へのアクセス手段は限られており、他の島嶼地域に比べて研究事例が少ない現状にありました。また、従来より生活習慣病やメンタルヘルスに関連した健康課題が顕在化しており、さらに新型コロナウイルス感染症拡大下において深刻化していました。これらの背景を踏まえて、学校保健を基盤とした幼少期からの保健教育が必要であると考え、関連政策文書レビューとインタビューを通じて学校保健活動の実施状況について調査しました。

Q.琉大で力を入れて取り組んでいること（学業以外も可）

琉球大学保健学研究科の博士後期課程学生として、独立行政法人国際協力(JICA)が主催する母子保健研修において、研修コースの総括業務を担当しています。研修受託機関はJICA保健医療分野の技術協力を携わってきた株式会社ティーエーネットワークであり、JICA沖縄と琉球大学保健学科と提携し、課題別研修を実施しています。日本・沖縄の公衆衛生の発展や地域住民を対象とした保健医療分野からのアプローチを学ぶことにより、研修員の自国での保健医療課題の解決に向けた技術協力を行っています。

母子保健研修には、アジア太平洋島嶼国のみならず、アフリカや中東からの研修員も参加し、日本・沖縄における母子保健の発展を基盤とした研修に取り組むものです。これまでに取り組んできた研究課題の知見を活かして、低中所得国からの研修員が日本・沖縄で深い学びを得るための議論展開に努め、国際社会へ貢献できるように努力したいと思います。



Q.研究の道（大学院）に進まれた理由・きっかけ

性教育の指導を含む国際学校保健について専門的に学び、自身の疑問（リサーチクエスチョン）を科学的に解決するための研究に取り組みたいと思ったことがきっかけです。私は、日本で看護師として臨床経験を積んだ後、西アフリカ・ブルキナファソ国のキリスト教系女子校において、JICA青年海外協力隊の看護師隊員として保健活動に従事しました。配属先のキリスト教系女子校では、複数の生徒が若年妊娠により就学継続が困難となるケースを経験しました。これらの問題を解決するために、妊娠のしくみや避妊方法に関わる教育が必要であると思い、性教育の指導を試みました。しかし、カトリックの宗教的背景から指導が困難な状況であり、生徒の若年妊娠の問題は解決されないままでした。これらの経験を通じて、他の国や地域でも同様に性教育の指導に課題を抱えているのかと疑問を抱き、大学院で専門的に学んでみたいと思いました。

Q.大学院進学を検討している後輩へのアドバイス

「論理的な文章を書くこと」および「語学力の向上」は必須だと思います。理由は、私自身が文章の執筆や語学力の向上に大変苦労しており、現在も課題であるためです。

Q.琉大の後輩におすすめの図書・雑誌

『疫学への招待 周産期を例として』三砂ちづる著
保健課題を調査するための「疫学」の視点から、リサーチクエスチョンを明らかにするための適切な研究方法の選択やデータ収集について、母子保健の観点から学ぶことができます。

『誰がこの子らを救うのか 沖縄—貧困と虐待の現場から』山内優子著
沖縄の子どもの貧困や虐待問題について、戦後の歴史と貧困問題の関連や児童相談所の現場レベルでの対応の実態を学ぶことができます。

